

平成30年8月23日(木)

サッカー選手権

吹奏楽部や合唱部は、少なくとも10月末までには、全国大会に向けて部活動が継続する。磐城高校生は、いつの時代も、進学と部活動の狭間で苦勞してきたのを私は見てきた。昼休みに現代文課外を行ったり、添削を行ったり、何とか進路をこじ開けてきた先輩達は数知れない。直近では、夏休みには7:00から化学の特別課外に通って勉強していた。

今年になって、9:00過ぎにT1ビルのあちこちで学習する磐城高校吹奏楽部の生徒達を見つけ、大人だけほろ酔いで申し訳ないと頭を下げて帰ることもあった。部長は、ピークスの鍵を開けるために、次の朝の7:00過ぎには登校している。

あと二つの部活動が、時には1月までそのせめぎ合いをしていくことを私たちは知っている。ラグビー部とサッカー部である。

サッカー部は、今、選手権の一次予選を免除され、来たるべき二次予選の戦いの準備に余念がないところである。様々な思惑の中で、今年、選手権まで残ろうと決めたのは、選手五人とマネージャー三人である。

今年の夏の暑い日々、この八人は下級生と共にFリーグの戦いや練習試合や第二グラウンドでの汗とほこりにまみれた時間を送ってきた。残らなかった人がどうこうというのではない。また八人はすばらしいというのではない。

そんなこだわりを持って戦う姿に下級生達に残す熱い魂を大切にしてほしいと願うのである。だだで青白のユニフォームがあるわけでもなく、40年を超えて繋がる磐城の蒼い魂の継続のことを思うのである。

ラグビー部も夏の菅平に、8月9日の台風の朝、合宿のためにでかけていった。きっと、毎日、ずっと走っているだろうとお盆の空の白い雲を見渡していた。ラグビー部には70年の時が重なっている。

なぜ、走るのか。そこに花園に交差するラグビーボールがあるからである。

なぜ、サッカー部は戦うのか。向こうに国立の舞台があるからである。

そうやって、蒼い魂が繋がってきたのだ。

今、進学に向けて勉学するサッカー部3年生も、共に選手権を戦っているのだよ。一緒に戦うことから、魂は宿るのだ。

3年生は、残すところ半年、「本当の磐城」を満喫して下さい。